

2019年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

中学1年 2019年度重点目標

中学1年 2019年度重点目標	
項目1	①「学力向上に向けて」
	目 標
	達成方法
項目2	②「生きる力育成に向けて」
	目 標
	達成方法
項目3	③「学校教育環境整備と質向上に向けて」
	目 標
	達成方法

2019年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

中学2年 2019年度重点目標

中学2年 2019年度重点目標	
項目1	①「学力向上に向けて」
	<b>目標</b> 中学生活を通じて能動的な学習をできるようになる
	<b>達成方法</b> 授業においては、生徒の発言や解答を軸にした授業を展開していく。そのために、タブレットの活用や教え合いの実践を心がける。 英検や数検など、外部検定受験を積極的に促し、自ら課題に取り組む姿勢を涵養する。 朝学習「early birds」や放課後講習など、自分で選択して勉強する時間を設けられるような機会を多数提供する。
項目2	②「生きる力育成に向けて」
	<b>目標</b> 社会に出る前に必ず身に着けなければいけないこととして、「時間とルールを守ること」を徹底する。 自立した女性になるために、身の回りのことから将来の目標設定まで、自分で考えて決められるようにする。 周囲との関わり合いを通じて他人のため、社会のために行動するということがどういうことか、理解と実践をできるようにする。
	<b>達成方法</b> 時間とルールを守るため、朝学習やSHR小テストの実施などにより、朝から余裕を持って行動することや時間を逆算して行動することを定着させる。 保護者や教員からの指示を待つのではなく、自らの判断で行動できるよう、学校行事を通じて働きかける。 体育祭・文化祭・合唱コンクールを通じて協調・議論の正しいあり方を学ぶ。
項目3	③「学校教育環境整備と質向上に向けて」
	<b>目標</b> 生徒がどのような学校生活を送っているかを常に把握できる、開かれた学校にする。
	<b>達成方法</b> 学年通信を月3部は発行し、予定の把握や現状何が問題になっているかを生徒・保護者と共有する。 manabaや学校アンケートなどにより双方向で意見を交わし合える環境を構築する。

2019年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

中学3年 2019年度重点目標

中学3年 2019年度重点目標	
項目1	①「学力向上に向けて」
	目 標
	達成方法
項目2	②「生きる力育成に向けて」
	目 標
	達成方法
項目3	③「学校教育環境整備と質向上に向けて」
	目 標
	達成方法

2019年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

高校1年 2019年度重点目標

<b>①「学力向上に向けて」</b>	
項目1	<b>目標</b> (1)「自ら学ぶ姿勢」とともに「協働して学ぶ姿勢」を持つための授業構成を構築し、2020年度の大学入試改革の方向性に左右されない確固たる実力と自己実現力を育成する。また、英語4技能の向上のための取り組みを引き続き進めていく。 (2) 大学入試に必要な学力に関して、模試や検定を通して自ら客観的に分析し、自ら工夫して獲得する姿勢を身につける取り組みを用意する。 (3) 文系・理系選択や志望校選択に向けて進路情報を提供しながら前向きな選択ができるようにする。また、ポートフォリオ作成を通して、自己の取り組みを振り返り次につなげる習慣を身につけさせる。
	<b>達成方法</b> (1) 学校生活の大部分の時間を占める「授業」を通して生徒が自ら学ぼうという姿勢を持てるように、教員と生徒がそれぞれ修正しながらよりよい授業を構成していく。「基礎学力向上」「受験学力向上」に関しては、授業と授業外の取り組みの双方の連携によって取り組んでいく。具体的には、朝学習と週2回の放課後15分学習の時間を活用する。また、放課後延長学習の時間を設けることにより、学習習慣の定着についても取り組める体制を用意する。 (2) 模擬試験に関しては、「基礎学力」「受験学力」「大学入試共通テスト対策」という形でそれぞれの目的を明確にし、数値結果に固執せずアセスメントを活用できるように指導をしていく。また、検定に関してはポートフォリオ蓄積に関わる部分であるので引き続き推奨していく。 (3) 生徒向け進路ガイダンスの実施や、「夢ナビ」を通じた大学調べなどを通して、文理選択に対して広い視野で検討できるような機会を用意する。また、ポートフォリオについてはICT環境を活用しながら活動メモの記録を行い、教員が丁寧にチェックすることで、生徒が自ら学びのデータとしてまとめられるように指導を行う。
<b>②「生きる力育成に向けて」</b>	
項目4	<b>目標</b> (1)「7つのルール」「校則」「生徒指導方針」を通して、社会で堂々と活躍できるような自立心・自律心を育成する。 (2) Global Study Tour に向けたプログラムを通して、自己のキャリア育成について考える機会を設ける。
	<b>達成方法</b> (1) ルールの中から重点的に課題を設定し、ガイダンスやクラスでの指導を通して身につけさせていく。それとともに、校外や対外行事でも堂々と活動できるように社会でのマナーやモラルについても指導していく。 (2) SDGsプログラムやCASプログラムを通して、グローバルイシュー及びキャリア形成に関して学ぶ。そのことを通して、自分の将来にいかにつなげるか考え、行動目標を設定させる。
<b>③「学校教育環境整備と質向上に向けて」</b>	
項目5	<b>目標</b> (1) 保護者向けのガイダンスに関して、時期や内容を精査しながら効果的に情報提供できるように取り組む。 (2) 開かれた学校を目指すための情報発信を更に継続するとともに、保護者会・面談・学校評価アンケートの結果を今後もフィードバックしていく。
	<b>達成方法</b> (1) 年間で開催される保護者ガイダンスに関して、その目的を明確にした上で教員が全体指導と個別指導を効果的に行えるように整理する。また、時期や情報量に応じて保護者ガイダンスの内容を整理し、重要事項を伝えられるように工夫する。 (2) 中学3年間、学年通信・学級通信・進路部通信によって情報発信を進めるとともに、保護者会では学校評価アンケートの結果をもとにフィードバックを行ってきた。そのスタンスを高校でも継続していく。

2019年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

高校2年 2019年度重点目標

高校2年 2019年度重点目標	
項目1	①「学力向上に向けて」
	目 標
	生徒一人一人の模試での偏差値を2年終了後までに+5アップを目標とする。
	放課後延長学習を充実させる。
	進路目標別ガイダンスを適宜実施する。
	生徒自ら積極的に学習に取り組み、学習習慣・学習スタイルを確立する。
	達成方法
模試分析結果を学年で共有し、生徒個々の弱点を把握し、次の模試に備えさせる。	
集中して学習する習慣を確立させるための自学自習環境を提供する。	
国公立、早・慶・上・理、GMARCH、AO対策などの目的別ガイダンスを実施する。	
能率手帳「スコラ」の活用をガイダンスし、学習時間や日常生活を自ら振り返ることが出来るように指導する。	
「進路カルテ」を作成し、各個人が模試ごとに目標を設定し、目標達成のための具体的計画を考えさせる。	
論文作成を行い、2021年度入試改革に備えさせる。	
項目2	②「生きる力育成に向けて」
	目 標
	メリハリのある生活習慣の確立(自己管理能力の育成)をはかる。
	集団における自己責任能力の育成と多角的思考力の向上を目指す。
	社会のグローバル化を想定した将来設計像の構築を促す。
	達成方法
	生活指導の基本である「7つのルール」を再度確認し、徹底する。
「常に前向きな思考を持つこと」が、2年後の進路決定や日常生活にプラスの影響を与え、「悲観的な発言をすること」はマイナスの影響を与えることを再度理解させる。	
学年全体で学力が向上するための方法を、場面ごとに具体的に生徒に示す。	
国際社会で通用する人材の育成のため、積極的にキャリア実現のための講習会の参加などを薦める。	
クリティカルシンキングなどの練習を通して多角的な見方ができるような生徒を育てる。	
項目3	③「学校教育環境整備と質向上に向けて」
	目 標
	保護者対象のガイダンスの充実をはかる。
	学年の活動や進路指導に関する保護者の理解と協力をいただけるように情報を提供していく。
達成方法	
年3回の保護者ガイダンスを通して、本校の進路指導方針、及び現在の大学入試のあり方について具体的に提示する。	
2021年入試改革の各大学情報を早く得ることによって、具体的な対策を提示する。	

2019年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

高校3年 2019年度重点目標					
項目1	①「学力向上に向けて」				
	<table border="1"> <tr> <td>目 標</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・志望校への意識を高め、目標への道筋を考えることができる。</li> <li>・問題演習を中心とした実践的授業をすすめ、基礎力の最終確認と応用力の育成を</li> <li>・模試結果の分析を行い、次の模試への意識を高める(生徒、教員ともに)。</li> <li>・足りないから諦めるのではなく、伸びる要素がまだあるという前向きな意識で学習に向かう。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>達成方法</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路ガイダンス、卒業生による進路講演を通じて目標に対する意識を高める。</li> <li>・模試の前には、各科目対策を行い、受験後には解き直し、振り返りを大切にする。</li> <li>・模試のデータを用いて生徒へフィードバックを行う。</li> <li>・放課後延長学習(自学自習の環境確保)の実施。</li> <li>・大人が励ます。</li> </ul> </td> </tr> </table>	目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・志望校への意識を高め、目標への道筋を考えることができる。</li> <li>・問題演習を中心とした実践的授業をすすめ、基礎力の最終確認と応用力の育成を</li> <li>・模試結果の分析を行い、次の模試への意識を高める(生徒、教員ともに)。</li> <li>・足りないから諦めるのではなく、伸びる要素がまだあるという前向きな意識で学習に向かう。</li> </ul>	達成方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路ガイダンス、卒業生による進路講演を通じて目標に対する意識を高める。</li> <li>・模試の前には、各科目対策を行い、受験後には解き直し、振り返りを大切にする。</li> <li>・模試のデータを用いて生徒へフィードバックを行う。</li> <li>・放課後延長学習(自学自習の環境確保)の実施。</li> <li>・大人が励ます。</li> </ul>
	目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・志望校への意識を高め、目標への道筋を考えることができる。</li> <li>・問題演習を中心とした実践的授業をすすめ、基礎力の最終確認と応用力の育成を</li> <li>・模試結果の分析を行い、次の模試への意識を高める(生徒、教員ともに)。</li> <li>・足りないから諦めるのではなく、伸びる要素がまだあるという前向きな意識で学習に向かう。</li> </ul>			
達成方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路ガイダンス、卒業生による進路講演を通じて目標に対する意識を高める。</li> <li>・模試の前には、各科目対策を行い、受験後には解き直し、振り返りを大切にする。</li> <li>・模試のデータを用いて生徒へフィードバックを行う。</li> <li>・放課後延長学習(自学自習の環境確保)の実施。</li> <li>・大人が励ます。</li> </ul>				
項目2	②「生きる力育成に向けて」				
	<table border="1"> <tr> <td>目 標</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗を恐れずチャレンジする姿勢を養う。自ら考えて行動することができる。</li> <li>・7つのルールを意識せずともそのような行動ができる。</li> <li>・他者を尊重し、配慮できる人に。</li> <li>・主体的かつ批判的思考を身につけることができる。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>達成方法</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗をしても決して咎めるのではなく、その経験を次に活用できるよう助言する。また、よくできたこと、チャレンジしたことは評価する。</li> <li>・多様な受験方法があるので、常に誰かが受験している意識や配慮を日頃から持たせる。</li> <li>・生徒の主体的な考えを尊重してものごとに取り組む機会を設ける。</li> </ul> </td> </tr> </table>	目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗を恐れずチャレンジする姿勢を養う。自ら考えて行動することができる。</li> <li>・7つのルールを意識せずともそのような行動ができる。</li> <li>・他者を尊重し、配慮できる人に。</li> <li>・主体的かつ批判的思考を身につけることができる。</li> </ul>	達成方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗をしても決して咎めるのではなく、その経験を次に活用できるよう助言する。また、よくできたこと、チャレンジしたことは評価する。</li> <li>・多様な受験方法があるので、常に誰かが受験している意識や配慮を日頃から持たせる。</li> <li>・生徒の主体的な考えを尊重してものごとに取り組む機会を設ける。</li> </ul>
	目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗を恐れずチャレンジする姿勢を養う。自ら考えて行動することができる。</li> <li>・7つのルールを意識せずともそのような行動ができる。</li> <li>・他者を尊重し、配慮できる人に。</li> <li>・主体的かつ批判的思考を身につけることができる。</li> </ul>			
	達成方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗をしても決して咎めるのではなく、その経験を次に活用できるよう助言する。また、よくできたこと、チャレンジしたことは評価する。</li> <li>・多様な受験方法があるので、常に誰かが受験している意識や配慮を日頃から持たせる。</li> <li>・生徒の主体的な考えを尊重してものごとに取り組む機会を設ける。</li> </ul>			
項目3	③「学校教育環境整備と質向上に向けて」				
	<table border="1"> <tr> <td>目 標</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用し、情報を発信する。</li> <li>・タブレット、スタディサプリの有効活用。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>達成方法</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・manabaやロイロノートを活用し、生徒や保護者との情報共有や連携を行う。</li> </ul> </td> </tr> </table>	目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用し、情報を発信する。</li> <li>・タブレット、スタディサプリの有効活用。</li> </ul>	達成方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・manabaやロイロノートを活用し、生徒や保護者との情報共有や連携を行う。</li> </ul>
	目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用し、情報を発信する。</li> <li>・タブレット、スタディサプリの有効活用。</li> </ul>			
達成方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・manabaやロイロノートを活用し、生徒や保護者との情報共有や連携を行う。</li> </ul>				